

宇宙基本計画工程表改訂について（宇宙安全保障部会関連）（案）

令和元年 11 月 19 日

内閣府宇宙開発戦略推進事務局

工程表 2 準天頂衛星システムの利活用の促進等

- 防衛分野において、準天頂衛星を含む複数の測位衛星信号の受信等により、冗長性を確保。

工程表 1 5 Xバンド防衛衛星通信網

- 2022 年度までに 3 号機を整備し、2022 年度の打上げを目指す。これら衛星通信網整備を通じて、自衛隊の指揮統制・情報通信能力を強化するとともに、更なる抗たん性の強化について検討。

工程表 2 1 宇宙状況把握（SSA）

- 2020 年度に宇宙領域専門部隊を新編し、SSA システムの実運用に向けた各種取組を推進するとともに、SSA 衛星及び SSA レーザ測距装置の導入に係る取組を推進。
- 民間業者が活用可能な SSA プラットフォーム形成に向けたフィージビリティスタディを実施。
- 関係府省及び関係機関が一体となった SSA 体制の在り方について、米国との連携強化も踏まえ継続的に検討。
- 宇宙天気情報の活用について、防衛省と NICT の連携を強化。
- 宇宙交通管理（STM）等の国際的な動向について調査し、将来の SSA 情報の利活用について検討。

工程表 2 2 海洋状況把握（MDA）

- 「海洋状況表示システム」（海しる）の各利活用分野のユーザーニーズを踏まえた機能強化。
- 情報収集衛星の着実な増強や、陸域観測技術衛星 2 号機（ALOS-2）等に加え、先進光学衛星（ALOS-3）、先進レーダ衛星（ALOS-4）等の各種衛星及び民間等の小型衛星（光学衛星・SAR 衛星）等の活用も視野に入れた海洋情報の収集・取得に関する体制や取組を、運用場面で求められる能力（時間・空間分解能等）を踏まえ強化。
- MDA における衛星情報の更なる利活用に向けて、情報共有システムとの連携を強化。また、米国や仏等との一層の連携強化。
- 最新の自動船舶識別装置（AIS）関連技術等の衛星を活用した船舶を検知する技術の調査研究等を行い、MDA 能力を強化。

工程表 2 3 早期警戒機能等

- 2020 年度に打上げ予定の先進光学衛星（ALOS-3）への、衛星搭載型 2 波長赤外線センサの相乗り搭載に係る施策を着実に推進。
- 早期警戒機能等に関する技術動向について、必要な具体的機能、効果やコスト等の視点を考慮した調査研究を実施。

工程表 2 4 宇宙システム全体のミッションアシュアランス（機能保証）強化

- BCP 等のベストプラクティスの共有を踏まえ、衛星システムのうち地上局に対する模擬ストレステスト等の実施を検討。
- 宇宙分野における多国間机上演習「シュリーバー演習」に継続的に参加し、その成果を我が国の宇宙システムのミッションアシュアランス強化施策に反映。
- 宇宙システムについてのリスクアセスメントを強化するための調査研究を実施。

工程表 3 7 JAXA と防衛省との連携強化

- 研究協力協定等に基づき、JAXA と防衛省・防衛装備庁の連携を強化し、情報共有等の協力を継続。
- 新たな防衛計画の大綱・中期防衛力整備計画（平成 30 年 12 月策定）を踏まえ、防衛省の宇宙領域専門部隊新編を含む宇宙分野における更なる能力強化に向け、JAXA による SSA に関する協力や教育支援、人材育成に係る取組における連携を強化。
- 防衛省による具体的取組への JAXA の協力の充実に向けた取組を推進。

工程表 4 5 宇宙空間における法の支配の実現・強化

- 引き続き COPUOS 等における国際的な議論に参加し、国際社会におけるルール作りに貢献。特に、2020 年 2 月から COPUOS 科学委員会の下に設置される宇宙活動の長期的持続可能性に関する新たなワーキンググループにおける議論に積極的に貢献。

工程表 5 1 宇宙安全保障の確保に向けたその他の取組

- 米国 SSA センサの準天頂衛星へのホステッドペイロードの実現に向けた取組を進めるとともに、米国における宇宙領域の活用動向も踏まえ、日米の宇宙安全保障分野での連携強化を促進。
- 防衛分野において、準天頂衛星を含む複数の測位衛星信号の受信や情報収集衛星（IGS）・超小型衛星を含む商用衛星等の利用により、冗長性を確保。
- 宇宙領域における電磁波監視態勢の在り方、電磁波領域と連携した相手方の指揮統制・情報通信を妨げる能力、人工衛星を活用した警戒監視について調査研究し、必要な取組について検討。

（以上）